

4年目の取り組み

東京都立篠崎高等学校

教諭 松田紀代

体育授業が終わるたびに感じることもある。それは「体育の授業とは何か」ということだ。

大学で学び、学習指導要領を理解し、一応はわかっているつもりだ。体育の授業では何が必要なのかも考えて授業を組み立てているつもりでもある。毎日の授業の積み重ねが、子ども達の実生活に結びつくようにしたい。だからこそ体育の授業を終える度にこれで良かったのか、悪いところはどこか自問自答を繰り返し、私の中で体育とは何かを考えることになる。

メールマガジン続き

高等学校の体育では、中学校での学びを発展させ、生徒の主体的な取り組みを促し生涯にわたって継続的なスポーツライフを営むことができるようにすることが求められている。初任当初、私自身の体育授業の目標があいまいだった。体育科の目標はあっても、それに照らし合わせた授業はできていなかったのではないかと記憶している。しかし、そのような授業では、一生懸命取り組む生徒がいる一方、積極的に取り組むことができない生徒もいた。私は、生徒に必要な授業は何かを考え、「良い授業をつくりたい」と本気で考えるようになった。

私は体育分野の研修会に積極的に参加し、また勤務校の様々な科目の先生方の授業を見学し、効果的な指導方法や声のかけ方、場の設定方法などを学ぶことにした。その結果、「良い授業」の共通点は、「目的の明確さ」であることに気付いた。教員が示す授業の目的を明確にし、生徒が目的をもって授業に取り組むことで、生徒の授業への参加意欲が高まる。当たり前のことであるが、私には目的を明確にすることができていなかった。今は、生徒と自分の意識に一体感をもって授業を進めることに気をつけている。生徒にとってさらに「良い授業」を目指す中で、私が今取り組んでいることは「生徒がつくる授業」である。

本校の保健体育科の目標の中に、先に述べた中学校での学びの発展である“主体性を養う”というものがある。現代社会でその低さが課題になっている自分の意志・判断で行動しようとする“主体性”をどう養うことができるのか。そこで、主体性を養うことを目的に、保健体育研究会で学んだ「生徒がつくる授業」を実施することにした。

「生徒がつくる授業」では、リーダーを決め、授業を教えるのも、授業の準備をするのも全て生徒が行う。実施種目の経験回数や特性、各学年の発達段階に応じてその方法には違いはあるが、生徒が授業を組み立て、自分たちで課題を見つけ、新しい課題に取り組むことができるようにしている。教員は、リーダーとなる生徒への指導をあらかじめ行い、授業終了後には、生徒全員でその授業を振り返る。

初めて実施する際、大きな不安はあった。本当にできるのか、全員が意欲をもって取り組むことができるのか。試行錯誤はあったが、実際には生徒は今まで以上に生き生きと授業に取り組むことができるようになったと感じている。リーダーとなった生徒は、授業を成功させるために、その種目の下調べを必死で行い、授業で学びたい技術は何か、どう伝えるのか、どのような練習方法が効果的なのかをしっかりと考えてくれるようになり、リーダー以外の生徒はリーダーの指示

のもと協力して授業に取り組むようになった。授業が成功すれば、リーダーもグループのメンバーも達成感を味わうことができ、もしうまくいかなかった場合は、その反省点を教員と共有し、次の授業リーダーが授業を計画する際の材料とする。

生徒たちが、授業を楽しくするのも、つまらないものにするのも自分たち自身であることに気付いてからは、全員の授業参加意欲が高まったように感じている。また、自分たちに必要な練習方法を考え実行していく過程の中で、今までは言われるまで動くことができなかった生徒たちが、次に必要な行動を自分で考え、自分の意志で動くことができるようになったことが大きな成長である。

新学習指導要領では、生涯にわたる豊かなスポーツライフの実現に向けて、発達の段階のまとまりを考慮し、小学校、中学校及び高校学校を見通した指導内容の体系化を図る方向性で様々な改訂が行われている。その中でも「体づくり運動」と「体育理論」についても指導の在り方が改善され、授業時数を配当する運びとなっている。これからの授業では、「体育理論」「体づくり」「生徒がつくる授業」をより密接に関連させることで、より生徒個々の主体性を養っていきたいと考えている。

「今日の体育の授業、楽しかったね」「今日の体育の授業、疲れたね」「今日の体育の授業、よくわからなかった」授業が終わって更衣室に向かう生徒の言葉を耳にすると、いつも「今日の授業の目的はうまく伝えられたらどうか、彼らは自分の目的を達成できたのだろうか」と不安になる。授業の主役は生徒であるといこうとを常に念頭におき、今以上に生徒を見つめ生徒の主体性を高める授業づくりをしていきたい。初任の頃も、4年目の今もその気持ち変わらないが、多くの先生方からご指導いただき、少しずつ授業の組み立ては進歩してきている気はしている。しかし、生徒にとって「良い授業」をつくるためには、これからも学び、知識を実践につなげ、日々授業の中身を進化させていきたい。